

越前市政報告

越前市長 奈良俊幸

越前市が誕生して、本年10月1日に10周年を迎えます。

そこで、「子どもたちの未来に輝く『ふるさとえちぜん』」をテーマに、8月末に耐震補強と施設のリニューアル工事を終えた市文化センター大ホールにおいて、10月10日に市制施行10周年記念式典を開催します。

市政功労者等の表彰や、小中学生による合唱と吹奏楽の演奏などを予定しています。

また、10月17・18日の両日には、丹南総合公園で「食べて動いて笑顔満載 まるごと越前フェスティバルろっさ」と題して、「食・健康・運動」の10周年記念イベントを行います。

本市の「三大グルメ（越前おろしそば・ボルガライス・武生駅前中華そば）」など越前市ならではの食のPR、日本サッカー協会から派遣された「夢先生」によるサッカー教室、市健康21ウォーク、市ミニスポレク祭などの事業を市民との協働により実施します。

併せて、本年は「市の鳥」であるコウノトリの放鳥が10月に計画されており、平成34年度末の北陸新幹線「南越駅（仮称）」の開業を見据え、越前市の豊かな自然環境や越前国府の歴史と文化、1500年の歴史を誇る伝統工芸やものづくりの技術を強くアピールし、今後のまちづくりの方向を明らかにする絶好の機会と考え、10月10日の市制施行10周年記念式典において、「環境・文化 創造都市宣言」を行います。

先人が築いてきたすばらしい環境と文化をさらに磨き上げ、新たな魅力を創造し、市民が住むことに誇りを持てるまちを築いていくことを高らかに宣言してまいります。

新庁舎の建設については、昨年9月から8回にわたり、本庁舎及び今立総合支所建設市民検討委員会において、基本構想・基本計画の策定に向けた議論を行い、本庁舎のイメージコンセプトを「人をつなぎ

歴史をつむぐ 賑わい・交流の場」、今立総合支所と周辺の公共施設エリアのイメージコンセプトを「人が集まる公園のような憩いの場」とする報告書を8月に取りまとめました。

この報告書を基に、10月から基本設計に取り組んでまいります。

北陸新幹線については、3月14日に長野・金沢間が開業するとともに、金沢・敦賀間の開業時期も平成37年度末から3年前倒しすることが1月に決定しました。

昨年9月からは鉄道・運輸機構が市内の沿線集落と設計協議を重ねており、協議が整った集落から用地測量が行われています。

市では、「南越駅（仮称）」の周辺整備に向け、南越駅周辺整備基本計画策定委員会において、駅周辺整備のコンセプト及び駅周辺施設が備えるべき機能を議論し、地理的条件も加味して道の駅的な施設の整備を検討するとともに、引き続き駅周辺整備の配置計画や土地利用計画等について議論を深め、年内に基本計画を策定する予定です。

人口減少への取組みについては、国が人口減少対策の基本理念を示した「まち・ひと・しごと創生法」に基づき、本市における人口の将来展望を示す市人口ビジョン、並びに平成31年度までの目標や施策の体系を示す市総合戦略の策定を行っています。

幸い、本市ではアイシン・エイ・ダブリュ工業株式会社の新工場が3月に竣工し、株式会社福井村田製作所の工場増設も9月末に竣工を迎えます。

また、信越化学工業株式会社の新工場も、来年11月頃の完成に向けて工事を進めています。

そこで、市総合戦略の策定に当たっては、大手企業の求人を踏まえた生産年齢人口の確保と、本市で働く人が本市への定住に結び付く環境整備を図ることをポイントとし、産業界や金融機関、労働団体等から情報・意見の収集を行いながら、生産年齢人口の確保や子育て環境のさらなる充実など、実効性の高い定住化の促進策を10月末に策定します。

また、本市独自の人口減少対策の取組みとして、4月末に庁内にI

J U（移住）課を設置しました。

I J U課は、定住促進に関連する部署に配属されている、I・J・Uターンした若手職員で構成し、市の行政組織には含まれない部署として、自由な発想のもと、定住化はもとより観光振興や広報戦略への提言など、独自の情報発信に取り組んでいます。

伝統産業の振興については、越前和紙・越前打刃物・越前箆笥など伝統産業の活性化と産業観光の振興を目的とする、市工芸の里構想を3月に策定しました。

工芸の里構想の推進に当たっては、和紙文化の発信拠点・産業観光の起点と位置付ける「紙の文化博物館」の改修工事をはじめ、和紙工場の生産過程の見える化に対応した工房改修への支援、和紙の里通りから五箇地区にかけての無料W i - F iの整備などを本年度から行っています。

また、平成28年度から29年度にかけて、越前打刃物の拠点施設やタケフナイフビレッジの独立工房ゾーンの整備、タンス町通り界隈のまちづくりなどに順次、着手していく予定です。

特に、越前打刃物においては、本市で40年振りとなる新たな独立工房が7月21日に竣工し、今後も若手職人の独立が続くことが期待されています。

また、越前箆笥においては、越前指物組合の若手職人が中心となり、指物技術の継承と向上、産地の活性化を図るため、奈良県の法隆寺が所蔵し、台座に「越前」の文字が墨書きされている国宝「橘夫人厨子」の複製の製作を行うこととしています。

観光の振興については、舞鶴若狭自動車道の全線開通や北陸新幹線の金沢開業など、高速交通網の整備が進む中、4月に法人化した市観光協会と連携を図っており、「天皇の料理番」として知られる、越前市出身の秋山徳蔵氏のテレビドラマの放映に合わせ、5月から7月に市内3店舗で、昭和天皇が召し上がった食事を再現して提供し、好評を博しました。

北陸新幹線の金沢開業を受け、J Rグループと北陸三県は10月か

ら12月にかけて、全国から北陸へ誘客するための北陸 destinations キャンペーンを展開することから、たけふ菊人形や昭和天皇が召し上がった食事の提供、越前和紙や越前打刃物などの伝統工芸の体験等を積極的にPRし、誘客に努めてまいります。

公共施設の耐震化については、市学校施設耐震化推進計画に基づき、平成20年度から実施してきた学校の耐震化が今秋に完了します。

また、市文化センターの耐震補強等工事も順調に進み、5月から管理棟と小ホールの使用を、9月からは大ホールの使用を再開しました。

来場者がより快適に観覧いただけるよう、耐震補強工事に加え、照明や舞台の改修、幅広の客席シートへの入替え、車椅子スペースの増設、トイレの改修などのリニューアル工事も実施しました。

平成30年の「福井しあわせ元気国体・福井しあわせ元気大会」については、国体の会期が平成30年9月29日から10月9日までの11日間に、障害者スポーツ大会の会期が10月13日から15日までの3日間に決定しました。

4月に庁内に国体推進課を設置し、5月には市準備委員会を市実行委員会に移行するなど、体制の強化を図ったところです。

本市で開催されるフェンシング・軟式野球・ソフトボール・ソフトテニスの4種目については、計画的な会場整備を進めており、フェンシングの会場となる武生中央公園体育館は、平成29年8月末の完成を目指し、8月19日に起工式を行いました。

軟式野球の会場となる丹南総合公園については、平成25年9月の野球場と多目的グラウンドを皮切りに順次、供用が開始され、里山部の工事が3月末に完成したことから、丹南総合公園全体の竣工式を4月に行いました。

道路の整備については、片屋町地係で整備している市道第3622号線を10月16日に供用開始します。

延長960mの本路線は、一昨年8月に全線開通した都市計画道路戸谷片屋線を広域農道まで延伸する道路であり、市街地の北部を東西

に横断し、これにより本市の環状網としての交通ネットワークが完成するため、市民の利便性が大きく向上することが期待されます。

コウノトリが舞う里づくりについては、2月から4月にかけて白山地区にコウノトリがたびたび飛来し、平成22年4月の「えっちゃん」以来、6年連続の本市への飛来となりました。

また、白山地区で飼育しているコウノトリのペア「ふっくん」と「さっちゃん」が昨年に引き続き5個の卵を産卵しましたが、残念ながら全て無精卵でした。

一方、昨年6月に県内で50年振りに誕生した3羽のヒナのうち、兵庫県豊岡市のコウノトリの郷公園で自然界に適応するための訓練を受けていた「げんきくん」と「ゆめちゃん」が9月に越前市に戻り、県が10月3日に放鳥する予定です。

市では、この放鳥に合わせて、2015コウノトリが舞う里づくり大作戦を白山小学校において開催するとともに、コウノトリの野外定着に向けた環境整備を引き続き推進してまいります。

以上、当面する市政の重要課題について、その取組みの一端をご紹介しました。

今後も「元気な自立都市 越前」の創造を目指して、市民との協働によるまちづくりを推進してまいりますので、武生郷友会の会員の皆様には、ふるさと納税をはじめ市政に対する引き続きのご支援とご協力をお願い申し上げます。